



[財]日本太鼓連盟

NIPPON TAIKO FOUNDATION

発行・編集 2007年10月

〒107-0052 東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル5階

財団法人日本太鼓連盟 理事長 塩見 和子

Tel.03-6229-5577 Fax.03-6229-5580

URL: <http://www.nippon-taiko.or.jp> Email: info@nippon-taiko.or.jp

会報

創立10周年記念日本太鼓全国フェスティバル ～東京国際フォーラムで開催～

【写真提供：三好英輔】



(「手取穴龍太鼓保存会」に手拍子をする会場の様子)

創立10周年記念日本太鼓全国フェスティバルを、9月27日(木)、東京都千代田区・東京国際フォーラム・ホールCにおいて、満席となる1,500人の観客を前に盛大に開催いたしました。

1997年の財団法人化以後、創立10周年を迎える今年、当財団主催、東京都支部、関東地区協議会主管となり、文化庁のほか、地元の東京都から後援を賜り行いました。

当日は、開場の1時間以上も前からお客様が列を作られていたため予定を早めて開場し、客席は3階まで満席になる程の盛況振りでした。公演は、主催者を代表して当財団の塩見和子理事長の挨拶、小口副会長による初っ切り太鼓で幕を上げました。続いて全国トップレベルの14チームが渾身の演奏を披露しました。以下出演団体をご紹介します。

【写真提供：三好英輔】



(「東京都合同チーム」)

1. 東京都合同チーム…14所属団体から6～63才までのメンバーが集結し、そろいの法被を着て演奏を披露しました。少しずつ太鼓の響きが重なり、やがて大きなうねりとなって会場を包みました。
2. 北海道くしろ蝦夷太鼓保存会…北海道の大自然に生きる人々の生活と祈りをテーマとした演奏を披露しました。北海道の太鼓を東京で聞けると思わなかったというお客様の声も聞かれました。
3. 富岳太鼓竜神組…静岡県御殿場市にある(社)富岳会の施設利用者と職員の混合チームは、障害を感じさせない迫力ある太鼓の響きにお客様より心が震えたという賞賛が寄せられました。
4. 銚子はね太鼓保存会…客席からの入場でお客様の注目を集め、手拍子に合わせて舞台上がり、千葉県銚子市に伝わる迫力満点の「ねかせ打ち」を披露しました。
5. 尾張新次郎太鼓保存会…バチを手で回しながら演奏する「曲太鼓」と、竹のバチで甲高い音を出す「神楽屋形太鼓」が神楽笛に合わせて演奏され、その音色に誰もが聞き入っていました。
6. 龍・連山と和太鼓「龍」…東北の雄、龍・連山氏の迫力ある大太鼓を中心とした演奏で客席まで振動が届くかのような迫力ある太鼓の音が会場を包んでいました。
7. 高野右吉と秩父社中…毎年12月の始めに埼玉県秩父市で行われる日本三大曳山祭である「秩父夜祭」のお囃子の華やかさを、一足早く東京の舞台上で再現しました。
8. おおむら太鼓連くじら太鼓…今年3月に行われた第9回日本太鼓ジュニアコンクール優勝チームが優勝時の曲を披露しました。大人顔負けの迫力ある演奏に会場から感嘆の声があがりました。
9. 福光もちつき太鼓保存会…餅をつくのにあわせて手拍子、足拍子、笛、太鼓を演奏する富山県に古くから伝わるチームです。その餅はフェスティバル終了時にお客様に配られ、大好評でした。

10. 八丈太鼓六人会…太鼓にあわせて歌われる太鼓節が浪々と会場に響き渡り、八丈島の風景が目に浮かぶかのように、お客様の心に染み渡る演奏でした。

11. 豊の国ゆふいん源流太鼓…2007年、由布市の無形文化財に指定されたゆふいん源流太鼓は、速さの極限を追求した締太鼓の演奏と大太鼓を中心とした「荒城の月」を披露しました。

12. 御諏訪太鼓保存会…小口大八氏を中心とした鬼気迫る演奏は太鼓と演奏者が一体化したような凄みがありました。小口副会長には、いつまでも現役でご活躍いただきたいものです。

13. 石見神代神楽上府社中…島根県出雲地方に伝わる石見神楽で、8頭の大蛇が所狭しと動き回りながら展開される須佐之男命の戦いにお客様は目が釘付けでした。

14. 手取亢龍太鼓保存会…昔から地元で伝わる虫送りの太鼓で有名な「手取亢龍太鼓保存会」は、大きな桶胴太鼓を演奏しながら客席から登場し、大桶胴太鼓を大人数で抱え、複数が叩く迫力に拍手が沸き起こりました。

最後は、出演者全員が舞台上がり、お客様とともに手締めで締めくくりとなり、フェスティバルは盛況裡の内に終了しました。

会場をあとにするお客様からは「和太鼓にこんなに多彩な魅力があるとは知らなかった。これはぜひ海外にも伝えていってほしい。」「テレビに是非採り上げてもらい、和太鼓の良さをもっと多くの人に知ってもらいたい」などといった声が聞かれ、フェスティバルの成功を物語っていました。今まで太鼓を聞く機会がなかった多くのお客様にも楽しんで頂くことが出来たようです。

創立10周年を記念したフェスティバルを無事終ることができましたのも、東京都を中心とする関東地区の支部役員と会員の皆様、そして出演団体をはじめとする関係各位のお陰と感謝いたします。

【写真提供：三好英輔】



(フィナーレ)

【写真提供：三好英輔】



(「石見神代神楽上府社中」の迫力ある大蛇[おろち])

「東京都合同チーム」の作曲・指導をされた湯澤元一氏より、今フェスティバルについてご寄稿頂きました。

「東京都合同チーム」として

湯澤 元一

東京支部は松本源之助会長の下に「東京都太鼓連合」として2000年に産声をあげました。全国より様々な人や物の集結する東京。太鼓文化も各方面から流れて来ていると同時に、伝承芸能・文化も根強く多くの団体が活動しております。東京支部は現在15団体が所属。発足当初は演奏会も行いましたが、近年は合同演奏会が中々実現出来ないジレンマの中、連盟より「日本太鼓全国フェスティバル」での「東京都合同チーム」演奏のお話を頂きました。しかも記念すべき(財)日本太鼓連盟の創立10周年、そして会場は世界的にも有名な「東京国際フォーラム」という大舞台とお聞きし、喜びが幾重にも重なり合いました。しかし東京都太鼓連合には合同曲が無い現実…支部会議の結果「太鼓集団天邪鬼の渡辺洋一氏」にご協力を頂き、合同曲を作曲させて頂きました。合同練習は僅か2回、本番が平日という事もあり、残念ながら各団体全てからではありませんでしたが、集まったメンバーは6才~63才の計41名。舞台当日は「合同曲」も「合同チーム」も初披露でした。小口先生の「初っ切り太鼓」に続き、チーム演奏トップバッターという大役のプレッシャーにも負けず、皆精一杯演奏してくれたと思います。演奏終了後は全員、全国の名だたるチームの渾身の演奏に魅了され大人も子供も大興奮でした。全国の他の支部より、支部団体としての活動がまだまだ少ない私達ですが、栄えある10周年の舞台で「合同曲」を発表させて頂いた事を新たな節目とし、(財)日本太鼓連盟の益々の発展と「和太鼓の普及・振興」のために、お力添え出来る様努力して参りたいと思います。最後になりましたが、この様な大きな舞台に関わらせて頂きました事を、関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

来年第12回大会は北海道札幌市で開催予定
第12回大会は、2008年7月13日(日)札幌市教育文化会館大ホールにおいて開催を予定しております。詳細は、当財団事務局までお問合せ下さい。

宮城・福岡・北海道道西で支部講習会を開催



(暑さに負けず太鼓を打つ受講生達)

<第35回日本太鼓支部講習会(宮城)>

8月11・12日(土日)、宮城県支部主催による支部講習会を、利府町総合体育館にて実施いたしました。地元宮城県をはじめ、74名が参加しました。開会式では、久保支部長より激励の挨拶があり、2日間の講習会がスタートしました。猛暑の中、厳しい講習会となりましたが、それでも受講生たちは一生懸命バチを振っていました。

◇技術認定員検定の結果は次のとおりです。

3級検定	15名受験	13名合格
4級検定	21名受験	18名合格
5級検定	38名受験	38名合格

<第36回日本太鼓支部講習会(福岡)>

9月15・16日(土日)、福岡県支部主催による支部講習会が行橋市民体育館を中心として行われ、3・4・5級基本講座に地元福岡県をはじめ、88名が参加しました。開会式では八並康一行橋市長、山本幸三衆議院議員よりご挨拶があり、福岡県で初の支部講習会がスタートしました。また今回は障害者の方も参加し、5級で8名が合格しました。

◇技術認定員検定の結果は次のとおりです。

3級検定	14名受験	14名合格
4級検定	14名受験	14名合格
5級検定	60名受験	60名合格



(開会式で挨拶する野本支部講習会事務局長)

<第37回日本太鼓支部講習会(道西)>

9月22・23日(土日)、北海道道西支部主催による支部講習会が幌向総合コミュニティセンターほっとかん(岩見沢市)で行われ、5級基本講座、専門講座(締太鼓)に地元北海道をはじめ、38名が参加しました。開会式では今井支部長より激励の挨拶がありました。北海道で初の専門講座検定が実施されるとあって受講生達は気合十分に講習を受けていました。

◇技術認定員検定の結果は次のとおりです。

1級検定	1名受験	1名合格
2級検定	9名受験	7名合格
5級検定	27名受験	27名合格



(渡辺洋一氏の締太鼓講座の様子)

日本太鼓が各地で関係団体に協力

リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2007

9月29日(土)に東京都・船の科学館にてリレー・フォー・ライフ・ジャパン2007が開催され、千葉県支部より「飛翔しぶき太鼓」が応援演奏を行いました。これは(財)日本対がん協会が、がん撲滅の運動を行っている組織に寄付する目的で行われたものです。当日はあいにく小雨がぱらついておりましたが、参加者の願いを聞き入れたかのように太鼓演奏時には雨はピタリと止み、がん撲滅に希望の光を注いでくれました。



(船の科学館前で演奏する「飛翔しぶき太鼓」)

夕張再生支援のフォーラムが開催

～道西支部会員・夕張太鼓保存会「竜花」が演奏を披露～

2007年8月4・5日(土日)、北海道夕張市の再生支援を目的にしたフォーラム「いま、あなたに伝えたい ゆうばりまちづくりフォーラム 夕張みらい会議からの提案」が市内のホテルマウントレースイで開かれました。医療、福祉関係者やボランティアら約100人が参加し、医療・福祉の面からこれから夕張の街づくりにどのような支援ができるかを中心に活発な意見交換を行いました。ゆうばりまちづくり実行委員会が主催となり、(財)日本太鼓連盟が助成を受けている日本財団も支援しました。

日本財団の要請を受けて、当財団道西支部会員夕張太鼓保存会「竜花」が参加者の前で演奏を披露しました。40名ほどのメンバーの中から15名を選出し、日本太鼓ジュニアコンクール道西支部予選大会(11月18日開催予定)を想定しての演奏でしたが、約100名の観客を前に、堂々の演奏ぶりでした。「竜花」は現在、閉鎖された運転教習場で練習をしていますが、雨漏りがひどく、保管している太鼓にはカバーをして雨漏りを凌いでいるとのことでした。苦境にもめげず今後、益々の活躍が期待されます。



(元気な姿で太鼓を打つ夕張太鼓保存会「竜花」)

親子いきいきランド

7月28日(土)、昨年に引き続き、関連団体である(財)日本ゲートボール連合主催の親子交流プログラム「親子いきいきランド」が福島県の屋内ゲートボール場すば一く月館にて開催され、約50名の親子を前に、福島県支部の「山木屋太鼓クラブ」が演奏しました。演奏後には、参加した子供達に実際に太鼓を体験してもらう時間を設け、その響きを感じてもらいました。親子のふれあいに貢献できたことを嬉しく思います。



(「山木屋太鼓クラブ」のメンバーに太鼓を教わる参加者)

第20回水心会夏祭り

9月12日(水)東京都・船の科学館において、水心会が親睦を目的に毎年開催している夏祭りが行われました。水心会は、当財団が助成を受けている日本財団、全国モーターボート競走会連合会などの関連団体から構成されています。今年はだるま落としやその優勝者を当てる3連単クイズが行われ、会場は大賑わいでした。また、今年も当財団に要請があり、太鼓チームが出演しました。東京都支部より「邦楽アカデミー和太鼓大元組」が、本館前広場と会場内メインステージで計2回の演奏をし、夏祭りを大いに盛り上げました。さらに、日本財団関連団体関係者で構成された「和太鼓水心会」も演奏を初披露し、真剣なまなざしで太鼓をたたく9人の勇姿に参加者の方から盛大な拍手が送られました。薩山水心会幹事長にもご挨拶の中で和太鼓水心会をご紹介頂き、名誉ある初披露となりました。また夏祭り後は、新メンバーが加わるなど嬉しい効果もあり、多くの方々にチームの存在を知って頂くことができました。



(お祭り気分を盛り上げる「邦楽アカデミー和太鼓大元組」)



(初演奏を披露する「和太鼓水心会」)

療育としての日本太鼓－3

今回は、静岡県の「金谷大井川川越し太鼓チャレンジチーム」の代表を務める和田光則氏よりご寄稿頂きました。このチームは、10月7日(日)静岡県御殿場市で行われた財団創立10周年記念日本太鼓全国障害者大会にも参加しました。チームを見つめ続けてきた和田氏にその変化を語って頂きました。

「太鼓を通して自信と希望を」 金谷大井川川越し太鼓チャレンジチーム 代表 和田光則

金谷地区には古くから習わしとして、正月に子供達が太鼓を叩いて、太鼓を奪い合うという遊びがありました。いつ頃から正月太鼓が叩かれたか、その発祥時期はわかりませんが、それが盛んとなったのは、川越し人足の仲間宿、即ち一番組から十番組までの組織の出来た寛政元年以後の事ようです。

この伝統の正月太鼓の勇壮で強烈な迫力を現したいと、昭和45年に川越し太鼓設立研究会が発足し、町の委託事業として承認され、準備委員会が発足、練習を開始、しかし総ての生活様式の変わった現代に江戸時代の単調なリズムのみ追うのは、いたって至難の業で、元来のイメージをこわさないように配慮しながら曲作りを始め、すべて地元の人の手によって作り上げてきました。

はじめはなにをどうしたらいいのかわからずうろろするだけでしたが、だんだん曲を覚え、何とか様になってきました。

私が会長になって、平成10年9月の時、障害者のチームを作りました。最初は6人位で始め、現在30人とふくれ上がりしました。私自身が太鼓を習いはじめたときは、へたくそで皆の足手まといでした。今のチャレンジチームに太鼓を教えはじめたら、私の習いはじめと同じでした。とても楽しくなりました。チャレンジチーム全員が知的障害で教えるのは大変です。でもこの子供達が太鼓を叩く時には目の色が変わり、とてもいきいきしています。

こんなにも変わるものかとおどろきです。正直いって最初は教えるのが怖かったのが本音です。この子供達とうまく付き合っていけるだろうか心配が先にきましたが、よくしたもので、1ヶ月を過ぎると気心がわかってきて打ちとけるようになり、色々としゃべる様になりました。

はじめはバチで手から血が出て、痛いだろうと思い、テープを貼ってあげようとする、手をかくして貼らせてくれませんでした。今では、自分からテープ、テープと言って手を出します。

この子供達もだんだんと変化が出てきて、私達と会話をするようになり、しゃべらなかつた子が、しゃべるようになりました。その子供達も年数がたつにつれて、色々な事にチャレンジしてくれます。

まず最初にチャレンジしてくれたのが、講習会の5級基本講座を受けたいと言いだしたことでした。それも4人、無理とはわかっていても何とかしてあげたいとの思いから申し込みました。私としても心配でたまりませんでした。私の心配をよそに、本人

達は真剣に頑張っています。その結果実技は全員合格でしたが、学科がだめで追試を受けさせて頂きました。そんな事があってから、本人達にも大分変化がみられてきました。自信が出たのでしょうか。皆の面倒をよくみるようになり、色々世話をやいてくれます。その中の1人の女の子はパソコンにもチャレンジして上手になっています。発表会等にはパソコンで文を作ってしゃべってくれます。4人の中の2人が、私達川越し太鼓のメンバーとニューカレドニアに同行して太鼓を叩いてくれました。うまくはないのですが、一生懸命太鼓を叩く姿が素晴らしかったです。そして、平成19年7月に行われた静岡県支部講習会に4人が4級基本講座に挑戦しました。その他3人が5級に挑戦し、合わせて7人全員合格でした。

それこそ(財)日本太鼓連盟の厚き厚き親心よりの合格です。5級を受けた中には10才の障害者がいます。その子が2日間の講習に音もあげず、よく頑張りました。見ていて涙が出る位頑張ってくれました。2才3才と小さかった時はよかったです。が、小学校も3、4年生になると、まわりの子供達とくらべられ、友達から、いじめも出てきます。今回5級を取った事で、どれだけ子供の自信がつくか、はかりしれません。

チャレンジチームも10年目を迎え、チャレンジ

チームだけの10周年記念コンサートをやりたいと思っています。この子供達も色々な所でチャレンジしてくれています。リズムの合わないことも多いけれど全員が仲良く、そして楽しく友達の輪を広げ今まで応援して下さい(財)日本太鼓連盟そして川越し太鼓会員、父兄、各関係者の皆様へ感謝しつつ、これからも大きくはばたいていきたいと思えます。



↑5級に合格した斉藤悠希君(川越し太鼓チャレンジチーム・10才)からの手紙(文章は保護者の方より)

1 級公認指導員への道

2007年7月に1級公認指導員に昇級した高島笑美、川口亜香両氏に、
これまで太鼓とともに歩んできた道を語って頂きました。

「これから・・・」

岐阜神代響太鼓（岐阜県） 高島 笑美

先ずは、私のことを時には厳しく、または励まして下さった諸先生方をはじめとして各支部役員の皆様、財団の皆様、全国にいる鼓友の皆様、“1級公認指導員”に昇級することが出来ました。

本当にありがとうございました。

今の私には、この言葉以外思い浮かびません。感謝の念で一杯です。

姉（高島奈々）と共に歩んできたこの道のり、こんなに険しいとは・・・本当に長かったです。辛かったです。太鼓が好きで楽しくて始め、いつしかその太鼓にのめり込み今日まで来ました。

技量を高めたい！という気持ちが大きくなるにつれ、基本打法に始まり、色々な打法を学べるのがすごく新鮮で嬉しくて仕方ありませんでした。

その後は、みなさんもご存知の通り、公認指導員への道に進みました。

その過程での指導員としての思いは、以前発行された会報の中で、姉が「道のり」と題して語っていましたが内容はほぼ同じです。

違う点は、私自身2級指導員として後半講習会参加拒否症になりかけ、悪く言えば気持ちが腐っていた点です。自分のどこがどういけないのか？どうしたらいいのか？分からなくなっていたからです。

答えが・助言が、欲しかったのに、自分自身納得のいく答えがもらえなかった、いや、見つからなかったのです。そのせいで、一時は誰の言葉も受け入れることが出来ませんでした。

今、特別講習会が実施されるようになり、それに参加したお陰で自分の至らなかつた点、どうすれば良かったのかが分かりました。この特別講習会がもっと、もっと早くから実施されていれば良かったのに・・・とも思いました。

こんな思いをして進んできた私ですから指導員を目指しているみなさんの為にも、痛みが分かる指導員になっていきたいと思います。

これからです。私自身どうしていくべきか！は。

祖父がこんな話しを私（達）にしてくれました。

「おめでとう！よく頑張ったな。でも、これからやぞ！頑張って取った資格を今後どう生かしていくかが、問題だ、目標だ！“太鼓”という大きな枠の中にいるが、極める道は違っていい。それは、二人して決めていけばいいことだ。あとは、より一層人として節ある行動を忘れるな。」と。

話してくれた内容はもう少し長かったのですが話の中でこの部分が一番私の心に残り、考えさせられたのです。

やはり、人の上に立つと言うこと、人を人が指導するという事は難しいことであり大変な事だと思います。気持ち的に余裕が持てるようになってきた現在、祖父の言葉を胸に“公認指導員1級”としての自覚を徐々に形にしていきたいです。その形が、出会う人達に対して安心感を与えられるように・・・。

それと、「これから・・・」の私は、“公認指導員とし

ての私”と“岐阜神代響太鼓の打手頭としての私”この2つが次なる目標に掲げ上げられます。

好きで楽しくて始めた太鼓、やはりこの気持ちを捨てる事が出来ません

姉と共に立ち上げたチームの太鼓技術の向上を！を根底に、技量を高めていくのも太鼓を指導する者として必要不可欠だと考えます。

一人でも私の事を応援して下さいる人がいればその人に喜んでもらえる様に自分自身成長をしなければいけないのです。

これからは、真っ直ぐ前を向き、今まで積み重ねた私の力の出し所と思っています。思いやりの心・感謝の心・信じる心・気を使わず頭を使い、悩んでも悲しまない気持ち、不屈の精神で何事にも精進していきます。

どうか、よろしくお願いします。

「新しいスタート」

穂積太鼓保存会（岐阜県） 川口 亜香

今回一級公認指導員に昇級させて頂くことができ、ただただこの一級という重さをかみしめています。

全国講習会に参加させて頂くようになり、自分のチームにいただけでは学べなかつた事。それは「人との出会い」だと思います。それまでは、学校の仲間、仕事先での同僚など、常に一定の枠の中で顔を見合わせる人達との環境しか知らなかつた私には、講習会でしか会う事の出来ない様々な年齢、様々な地域の方たちとの出会いが珍しくもあり楽しくもあり新鮮でした。いつも一人で参加していた私が何の気後れもなく初めて顔を合わせた人達と話が出来る。親しくなれる・・・これも太鼓という共通のものがあるからでしょう。この感覚が心地よくて毎回参加するようになり、顔なじみの仲間も出来るようになりました。その仲間達とは、時には心地よい言葉だけでなく耳痛い事も言い合ったりした事もありましたが、同じ志をもつ者同士、全てお互いの事を思っている事でした。仲間が真剣に言ってくれた一言一言が一級公認指導員という長い道程に途中何度も挫折しかけた私にとってずっと心の支えであり、今でも私にとって大切な言葉です。今までがむしゃらに突き進んできましたが、振り返ってみると知らず知らずのうちに仲間はもちろんの事、所属するチームの皆、講習会が開かれた地域のスタッフの方々、（財）日本太鼓連盟の方々、講師の先生方に励まされ、導かれ、助けられ何とかここまでくることが出来ました。改めて人との出会いの素晴らしさと感謝の気持ちとで一杯です。

以前、講師の先生に「公認指導員に大切なもの。技術力、指導力はもちろんの事、人間性も忘れてはいけない」と言われた事があります。今までは「まだ一級ではないから・・・」ということを使い訳に、自分の中にどこか逃げや甘えがあったように思えます。でもこれからはその甘えが許されなくなると同時に、より一層の努力、精進が必要だと思います。人生も太鼓道も山あり、谷あり。ゴールはないと思います。一山一山乗り越え、乗り越える度に新たな気持ちでスタートを切ると共に、人との出会いをこれからも大切にしていきたいと思っています。

7月26日船の科学館にて 第10回代議員会・第28回技術委員会を開催

代議員会

1. 2006年度事業報告並び決算報告について
2006年度事業報告書及び決算書を基に説明を行い、特に異議がなく了承された。
2. 2007年度事業計画並び収支予算について
事業の実施内容並びに収支予算について2007年度事業計画書及び収支予算総括表を基に説明を行い、特に異議がなく了承された。
3. その他について
次の事項について説明と要望があった。
 - (1) 財団事業の実施について
資料を基に2007年度までに実施した事業及びこれからの実施予定の事業について説明があった。これまでに全国規模の事業を実施していない支部については、今後開催に向けて検討願いたい旨を要望した。
 - (2) 2006年度支部事業報告書の提出について
税制上の関連もあり、支部事業及び支部会計を明確にするよう、再度要請した。
 - (3) ジュニアコンクール予選実施計画書及び報告書の提出について
今年度の支部予選の実施計画書を提出していない支部に対し、現時点で予定している計画案を提出願いたい旨を要請した。
★2006度の実績★
全国32都道府県から43ジュニアチームが選抜された。(予選実施31支部328チーム3,775名、支部推薦等4チーム)
 - (4) その他
これまでに開催した代議員会の出席状況について資料を基に報告し、できるだけ代議員本人による出席を要請した。また、代議員は支部長に限定していないため、他の役員を代議員に任命することも可能である旨を説明した。

技術委員会

1. 公認指導員の昇級について
公認指導員の昇級の可否について審議の結果、1級公認指導員昇級候補者である高島笑美氏と川口亜香氏(共に岐阜県)並びに2級公認指導員昇級候補者である田中容子氏(京都府)は、いずれも講習内検定において認定するに相応しいと判断された旨の説明があり、全員一致で承認された。
2. 第3期公認指導員更新研修会欠席者の対応について
公認指導員の更新条件である第3期公認指導員更新研修会欠席者への対応について8ページ記載の通り、全員一致で承認された。
3. 日本太鼓資格認定規程細則の一部変更について
 - ・ 1、2級の技術認定試験における2回目以降の受講については1回目から2年以内に受講することとなっているが、現状に即していないためこの制限を撤廃することとした。
 - ・ 第3条第5項に「第2項並びに第3項の定めに係わらず、技術委員会において特に必要と認めた場合は、支部講習会において専門講座を設定し、認定試験を受けることができる。」を追記する。これは、1級並びに2級技術認定員の資格取得にあたっては、専門講座を受講し検定を受ける必要があり、現行の細則では専門講座の設定は、全国講習会に限定されている。このため、北海道における認定制度の実施については段階的に計画する必要が生じている。については、北海道で開催する支部講習会に限り、専門講座を設定することとし、細則の一部変更を求めるものである。
以上について審議の結果、全員一致で承認された。

1級・2級公認指導員が誕生



1級 高島笑美
(岐阜神代響太鼓)



1級 川口亜香
(穂積太鼓保存会)

技術委員会で検討した結果、左記の2名の方々が1級公認指導員に認定されました。昇級された方々、おめでとうございます。

同時期に2級公認指導員に昇級した京都の田中容子氏と共に、第36回支部講習会(福岡)で賞状等が授与されました。

当財団では今後も指導者育成を図るための「公認指導員(1級～3級)」及び太鼓の演奏技術の向上を目的とした「技術認定員(1級～5級)」の育成に努めていく所存です。

事務局だより

<p>第4回日本太鼓シニアコンクール出場者募集</p> <p>期 日：2007年11月25日(日) 場 所：石川県こまつ芸術劇場うらら (石川県小松市土居原町710) 主 催：(財)日本太鼓連盟 (社)石川県太鼓連盟他 主 管：(財)日本太鼓連盟石川県支部 出場資格：①個人打ち 打ち手は60歳以上 但し、リズム奏者1名(60歳以下でも可)の 共演は良い。 ②団体打ち 打ち手は、全員60歳以上 演奏時間：3分から5分程度 費 用：全費用は出場者の自己負担とする。 表 彰：名人位、準名人(2名程度)、その他特別賞 申 込：原則として手紙、Fax、メールでお願いしま す。 (社)石川県太鼓連盟事務局 事務局長 北村吉則 〒920-3121 石川県金沢市大場町東57 Fax. 076-258-0265 メール：ishikawa-taiko@p2223.nsk.ne.jp</p>	<p style="text-align: center;">講習会のお知らせ</p> <p style="text-align: center;">第30回日本太鼓全国講習会(福島県郡山市)</p> <p>期 日：2007年11月17・18日(土日) 会 場：片平ふれあいセンター (福島県郡山市片平町字南町7-2) 講 座：専門講座 御諏訪太鼓講座(複式単打法) 小口 大八氏 八丈太鼓講座(単式複打法) 菊池 修氏 縮太鼓講座(単式単打法) 渡辺 洋一氏 基本講座 総合指導 古屋 邦夫氏(技術委員会委員長) 3級基本講座 鈴木 孝喜氏(1級公認指導員) 4級基本講座 渡辺徳太郎氏(1級公認指導員) 5級基本講座 (初心者講座) 松枝 明美氏(1級公認指導員) 申 込：(財)日本太鼓連盟福島県支部事務局 事務局長 渡辺徳太郎 〒969-1103 福島県本宮市仁井田字吹上34-1 Tel/Fax. 0243-33-3673 メール：w-toku@hb.tp1.jp</p>
---	---

日本太鼓助成金交付事業の再追加募集の結果&来年度分募集

8月31日第30回運営委員会において、下記2事業を追加決定いたしました。報告書受理後、助成金20万円が交付されます。また引き続き、2008年度助成金交付事業の募集を行っております。1事業助成金20万円、締め切りは12月27日(木)迄となっております。詳細は、財団事務局(担当:秋田、黒木)までお問合せ下さい。
 (財)日本太鼓連盟 Tel. 03-6229-5577 Fax. 03-6229-5580 メール：info@nippon-taiko.or.jp

開催期日	事業名	申請団体
2007年11月18日(日)	第10回日本太鼓ジュニアコンクール宮崎県大会	宮崎県支部
2008年2月24日(日)	第1回関八州太鼓まつり	埼玉県支部

公認指導員の資格停止・喪失について

2006年度に3回に分けて資格更新のため、第3期公認指導員研修会が行われました。欠席者に対する対応は次の通りです。

○ 資格停止とする者

- 2級公認指導員 1名 2-74 高木 克美(京都)
- 3級公認指導員 2名 3-105 鈴木 菊男(栃木)、3-75 高橋 和美(福井)
- 1級技術認定員(元3級公認指導員) 1名 1-29 寺田 禎(島根)

○ 降格とする者

- 2級公認指導員から3級公認指導員へ 2名
- 2-10 藤沢 清美(岩手)、2-45 坂田 憲章(富山)
- 3級公認指導員から1級技術認定員へ 11名
- 3-14 荒引 定男(福島)、3-22 小野寺 直人(岩手)、3-25 三浦 良一郎(岩手)、3-34 小山 芳信(岩手)、
- 3-36 本間 敏裕(山形)、3-98 宮本 亮(京都)、3-100 野田 悟(大阪)、3-108 高橋 弘悦(秋田)、
- 3-116 高橋 英樹(秋田)、3-131 安宅 春美(秋田)、3-139 小室 忠史(栃木)

○ 資格喪失とする者

- 3級公認指導員 8名
- 3-50 大橋 重雄(福島)、3-117 田村 幸雄(秋田)、3-119 大友 瑞穂(秋田)、3-121 後藤 留美子(秋田)、
- 3-122 佐々木 里美(秋田)、3-129 小白川 敬(秋田)、3-140 石塚 好正(栃木)、麻生 信夫(埼玉)
- 1級技術認定員(元3級公認指導員) 8名
- 1-7 後藤 義雄(群馬)、1-8 五十嵐 彰一(群馬)、1-69 得能 宏(石川)、1-70 楠 久雄(石川)、
- 1-71 黒坂 藤明(石川)、1-72 小西 喜興志(石川)、1-73 東 忠次(石川)、1-124 太田 真紀子(秋田)